

春は、あけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかり
て、紫だちたる雲の、細くたなびきたる。

夏は、夜。月のころは、さらなり。闇もなほ。螢のおほく飛び
ちがひたる、また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行く
も、をかし。雨など降るも、をかし。

秋は、夕ぐれ。夕日のさして、山のはいと近うなりたるに、鳥
の寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ、三つなど、飛びいそぐ
さへ、あはれなり。まいて、雁などの列ねたるが、いと小さく見
ゆるは、いとをかし。日入りはてて、風のおと、虫の音など、は
たいふべきにあらず。

冬は、つとめて。雪の降りたるは、いふべきにもあらず。霜の
いと白きも。また、さらでもいと寒きに、火などいそぎおこして、
炭もてわたるも、いとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびも
ていけば、火桶の火も、白き灰がちになりて、わろし。